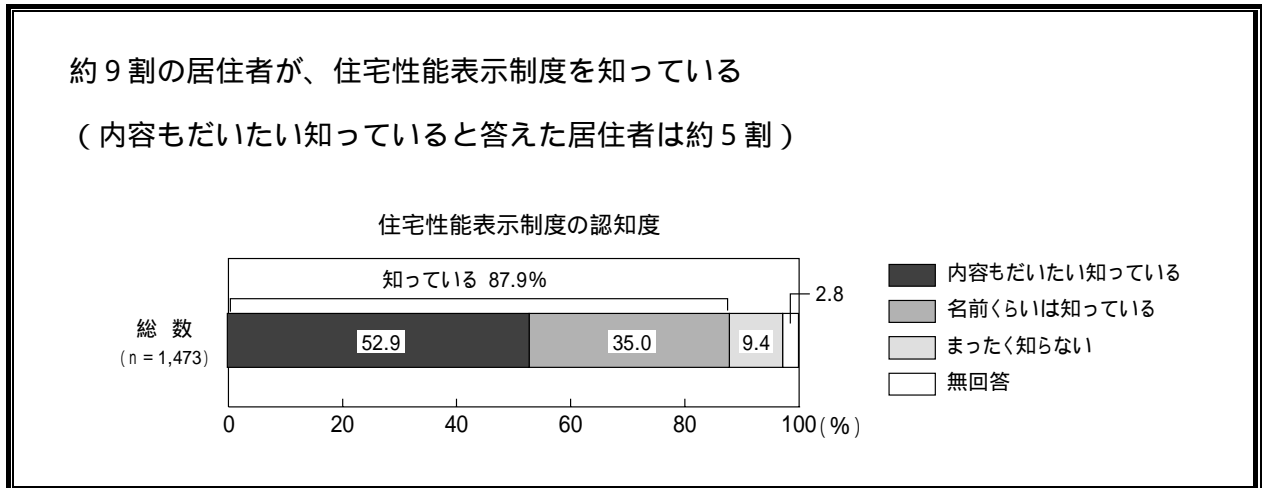


## 平成 15 年度住宅市場動向調査（住宅性能表示制度アンケート）結果の 主要なポイント

### 住宅性能表示制度の認知度

約 9 割の居住者が、住宅性能表示制度を知っている

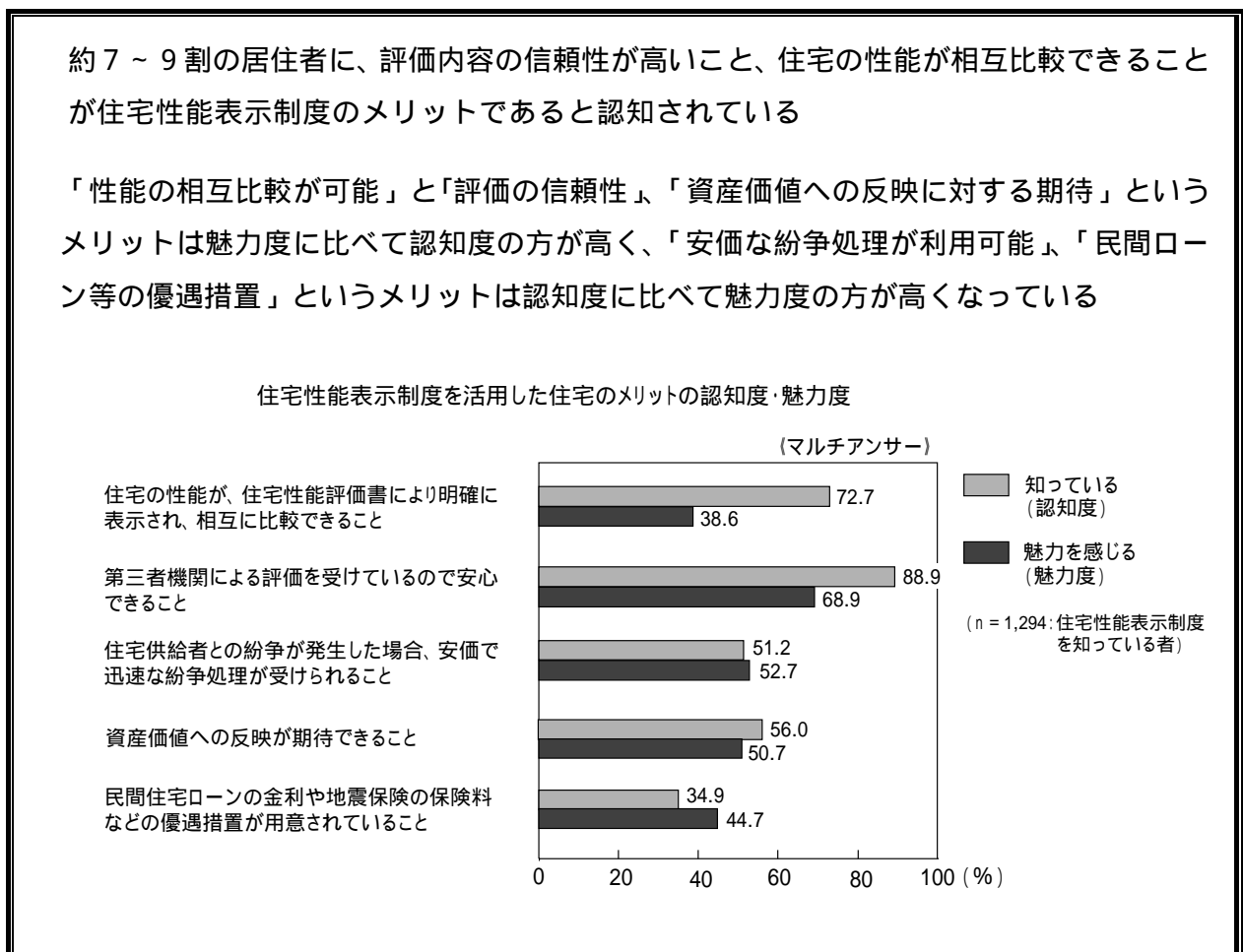
（内容もだいたい知っているという居住者は約 5 割）



### 住宅性能表示制度を活用した住宅のメリットの認知度・魅力度

約 7 ~ 9 割の居住者に、評価内容の信頼性が高いこと、住宅の性能が相互比較できることが住宅性能表示制度のメリットであると認知されている

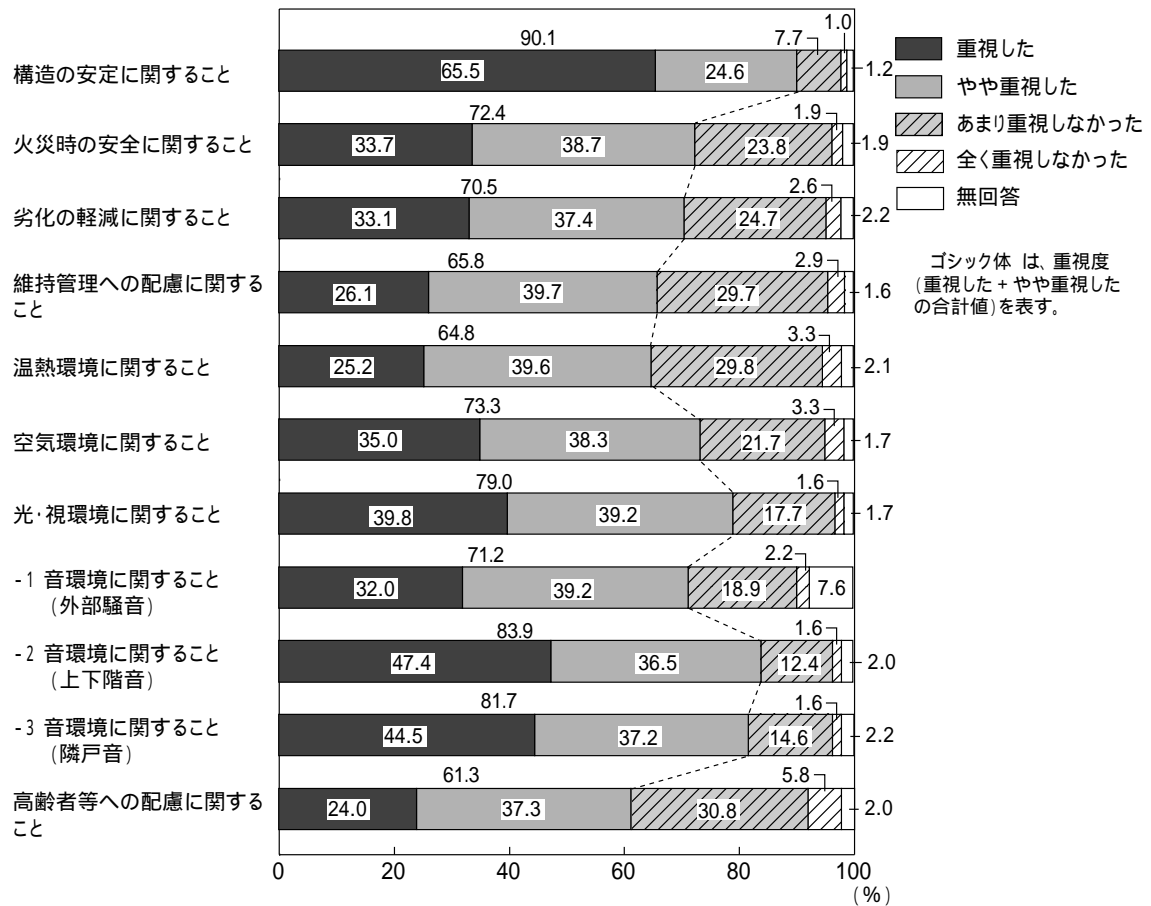
「性能の相互比較が可能」と「評価の信頼性」、「資産価値への反映に対する期待」というメリットは魅力度に比べて認知度の方が高く、「安価な紛争処理が利用可能」、「民間ローン等の優遇措置」というメリットは認知度に比べて魅力度の方が高くなっている



## 現在の住宅を取得した際の性能項目等の重視度

「構造の安定に関すること」を重視した居住者が約9割で最も重視度が高く、最も低い項目は「高齢者等への配慮に関すること」の約6割となっている

現在の住宅を建築又は購入した際の性能表示項目の重視度

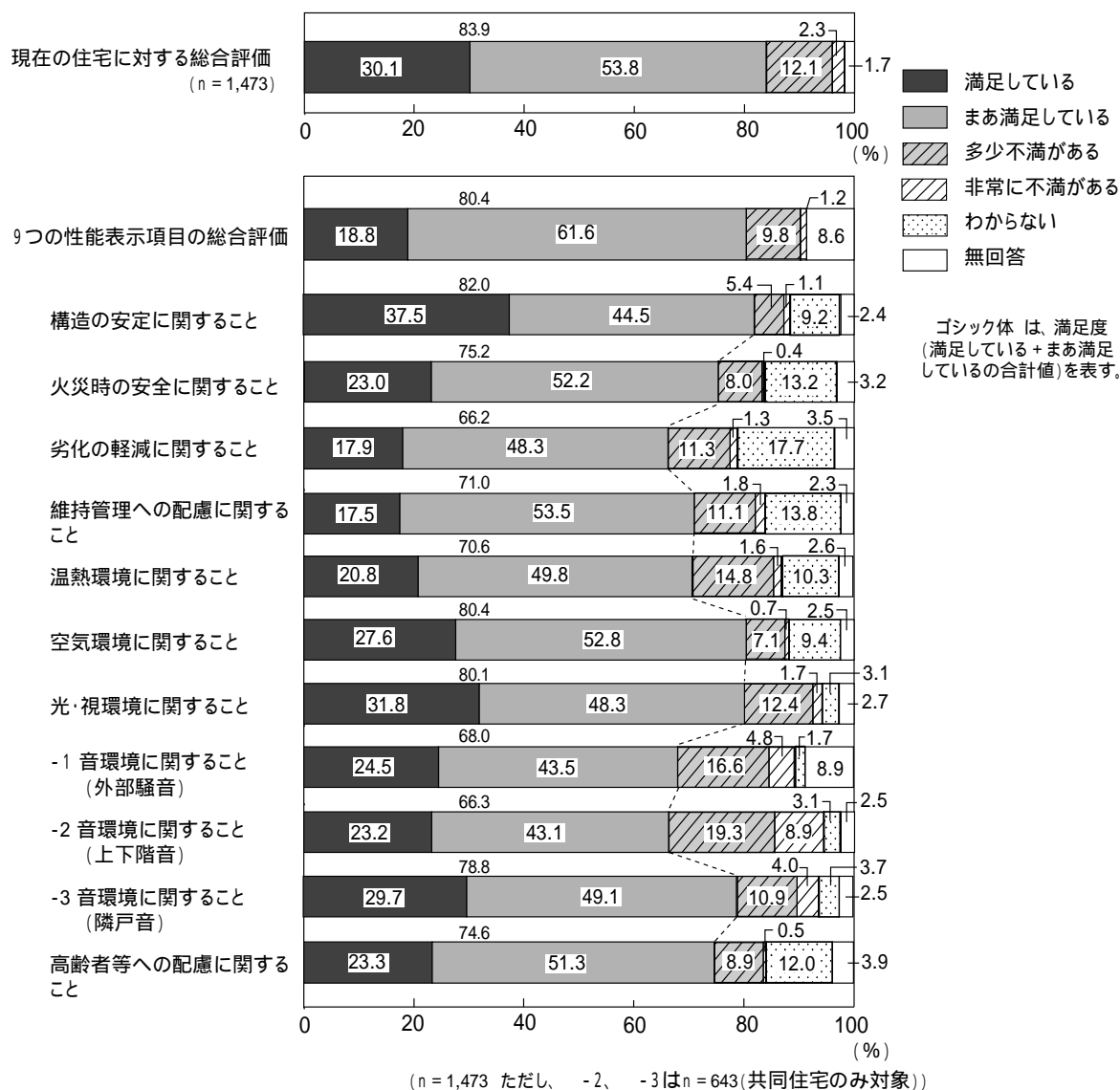


(n = 1,473 ただし、 -2、 -3はn = 643(共同住宅のみ対象))

## 現在の住宅に対する満足度

現在の住宅に対する総合評価について、約3割の居住者が「満足している」と答え、「まあ満足している」とあわせると、8割以上の居住者が現在の住宅に満足感を抱いている  
ほとんどの性能表示項目について、約7～8割の居住者が、現在の住宅の性能に満足感を抱いている

現在の住宅に対する満足度



### 【注記】

本文及び図中の構成比に関する数字は、小数点以下第2位を四捨五入して、小数点以下第1位までを有効数字として表章した。

したがって、構成比の合計数字が100%とならない場合がある。